

特定非営利活動法人
しみん基金・こうべ

1999年度事業報告



2000年 3月
特定非営利活動法人
しみん基金・こうべ

はじめに・ ・ ・ ・ ・

阪神・淡路大震災から5年が経ちます。6000名に及ぶ尊い命を犠牲にすることによって私達に多くのことを教えてくれました。ボランティア活動やNPO、NGOによる公益的な活動の重要性もそのひとつではないかと考えます。震災以降、社会において特に認知されはじめたこの様な活動は「人と人とが支えあい、互いに助け合う」という実に当たり前ですが、私達が忘れかけていた精神によって成り立って行くものなのです。「しみん基金・こうべ」は「市民が市民活動を支える」という理念のもと草の根の市民活動を支援していく為に、1999年7月に市民活動団体、企業、学識経験者、行政が協力し設立致しました。2000年1月には特定非営利活動法人としての認証を受け、市民活動への助成事業と市民への啓蒙、啓発活動を大きな柱として活動を続けております。1999年10月には第1回助成事業を行い、申請のあった39団体の中から理事による実地ヒアリングと公開審査会を経て15団体、総額800万円の助成を実施致しました。慣れない公開審査会でのプレゼンテーションは各申請団体にとって苦痛であったかもしれませんが、他の団体の活動やネットワークを知ることが大きな今後の励みになったものと考えます。また、2000年3月にはノンフィクション作家の柳田邦男先生をお迎えして「人の再生、まちの再生」～死者からのメッセージを生かすために～というタイトルで市民活動や助け合いの心の大切さをご講演頂きました。当日は250名を超える市民が先生のお話に耳を傾けました。

21世紀の社会は市民が主役となる市民社会でなければなりません。そして、その中で大きな役割を果たしていくであろう市民活動を「しみん基金・こうべ」は今後も支援していきたいと考えています。震災によって失った命から学んだことを生かしていく為に、また、震災から生まれた息吹を大きく育てていくために・ ・ ・ ・ 。

特定非営利活動法人 しみん基金こうべ
理事長 黒田 裕子

1 事業報告

(1) 平成11年度第1回助成事業（募集要項より抜粋）

[助成の趣旨]

しみん基金・こうべは、神戸市を中心とする地域の個人及び市民団体による公益を目的とした活動に対して助成をし、それによって市民団体等の活動を促進し、21世紀の市民社会にふさわしい魅力と活力のある地域の創造に寄与することを目的とします。

[助成の対象]

- ① 神戸市を中心とする地域に住所を有する団体
- ② 自主性を確保し、自律的に運営をされている団体
- ③ 団体としての継続性を有し、支給された助成金の管理及び事業を遂行する能力及び組織を備えた団体
- ④ 神戸市を中心とする地域に住所または活動場所を有する個人

[具体的な内容]

助成金の支給の対象となるのは、平成11年10月から平成12年3月までの事業で、具体的な内容は次にあげる通りです。また、市民社会の確立・存続にふさわしい「草の根活動事業」「開拓的・先駆的な事業」とであると当基金が認める事業については優先して選考致します。

- ①保険・医療または福祉の増進を図る活動 ②社会教育の推進を図る活動
- ③まちづくりの推進を図る活動 ④文化・芸術またはスポーツの振興を図る活動
- ⑤環境の保全を図る活動 ⑥地域安全活動
- ⑦阪神・淡路大震災による被災者救援及び被災地復興を含む災害救援活動
- ⑧人権の擁護または平和の推進を図る活動 ⑨青少年の健全育成を図る活動
- ⑩国際協力及び地域の国際化を図る活動
- ⑪男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
- ⑫前各号に掲げる活動を行う団体の運営または活動に関する連絡、助言または援助もしくは調査の活動
- ⑬その他当基金が特に公益を目的とするものと認めた活動

[助成金額]

支給される助成金は、1事業について総事業費の4分の3以内かつ、金100万円を上限とします。尚、総額は1000万円以内を予定しています。

[応募状況]

申請期間平成11年10月20日～29日までの間に39団体より申請がありました。

NO.	団体名	事業名
1	住吉コープ福祉・ボランティアセンター	震災ボランティア活動の記録誌の発刊と5周年メモリアルイベントの開催
2	はたっこ太鼓	はたっこ太鼓を通じてのネットワーク形成事業
3	クルーベ ブラジル	クルーベブラジル
4	未来をひらく・マブイ六甲	障害者の仕事創出・街づくり参加事業
5	特定非営利活動法人建築施工技術研究所	「建築技能アカデミー」における建築技能者の養成
6	エフエムわいわい友の会	外国人地域住民による多言語放送事業
7	ふるさと第4仮設同好会	復興住宅自治会作り
8	グループ117	語り部活動
9	わはは倶楽部	高齢者向け情報誌発行及びイベントの開催
10	いえなみ委員会	新長田駅北地区東部「いえなみ委員会」の活動・運営
11	加古川移送サービス	車イス利用者の移送サービス事業
12	KOBEハッピー会	ハッピーまつり
13	わんから	島唄コンサート
14	西宮コープ福祉・ボランティアセンター	西宮コープ福祉・ボランティア大会
15	兵庫盲ろう者友の会	元気の出る講演会
16	KOBEハッピー会	「学び座」上映会
17	阪神・淡路大震災まち支援グループ まち・コミュニケーション	コミュニティプラザ開設準備事業
18	在宅障害者自立支援センター「えほん」	ボランティア育成講座事業
19	在宅介護・家族を支援する会 ハートフルケア：絆	まわりの人が心豊かに暮らせる為の援助
20	ゆいまーる神戸	高齢者・障害者の「心のケア」を目的とする配食・給食・介助・移動のプロジェクト
21	神戸垂水おやこ劇場	子どもの年齢に応じた人間関係づくりワークショップ
22	市民活動センター・神戸	市民活動サポートセンター事業「市民活動センター・神戸」の運営
23	COM総合福祉研究所	ホームヘルパーレベルアップ事業
24	神戸リカバリーサービスセンター・さぼるて	合併症をもつアリコーリック在宅支援事業
25	公的援助法実現ネットワーク被災者支援センター	阪神・淡路大震災被災者の生活再建支援のための電話及び面談による相談事業
26	すたあと長田	地域高齢者・障害者への毎日型配食サービス
27	明石ジュニアコーラス	明石ジュニアコーラス「2000年コンサート」
28	未熟児の会「びっころ」	未熟児の家族に対するアフターフォロー
29	ひまわりの会	非識字者に対する識字学級の実施並びに総合的なコミュニティの育成
30	西すず安心センター	西すずらん台地域におけるボランタリーな地域形成をめざす事業
31	アジア女性自立プロジェクト	在日外国人女性へのサポートシステム作り
32	学半舎 自然教室	青少年対象 自然体験学習会の開催
33	震災モニュメントマップ作成委員会	震災モニュメント事業
34	ひまわり交流会	ひまわり交流会の開催
35	神戸北おやこ劇場	やんちゃクラブ「おしばいごっこ」
36	がんばろう！！神戸	被災者・高齢者・障害者の方々のための生きがいお仕事づくり
37	W・Sひょうご	「夫・恋人からの暴力」についての啓発事業
38	NGO外国人救援ネット	多言語による外国人のための生活相談ホットライン
39	「フェスティン湊川」実行委員会	第8回フェスティン湊川―障害者・高齢者と共に暮らせる街を創ろう！―

[公開審査会]

以下の日程で公開審査会を開催致しました。

開催日時 : 1999年12月1日(水) 13:00~17:30

会場 : 阪神・淡路大震災復興支援館(フェニックスプラザ)

参加 : 申請団体、基金審査員、基金役員、傍聴自由

[審査結果]

公開審査会における審査の結果、助成団体が以下のように決定致しました。

平成11年度助成対象団体一覧

助成団体名	兵庫盲ろう者友の会
事業内容	元気の出る講演会
アジア女性自立プロジェクト(AWEP)	まち・コミュニケーション
在日外国人女性へのサポートシステム作り	コミュニティプラザ開設準備事業
いえなみ委員会	未熟児の会「びっころ」
新長田駅北地区東部「いえなみ委員会」の活動・運営	未熟児の家族に対するアフターフォロー
エフエムわいわい友の会	未来をひらく・マブイ六甲
外国人地域住民による多言語放送事業	障害者の仕事創出・街づくり参加事業
加古川移送サービス	ゆいまーる神戸
車イス利用者の移送サービス事業	高齢者・障害者の「心のケア」を目的とする 配食・給食・介助移動のプロジェクト
神戸垂水おやこ劇場	COM総合福祉研究所
こどもの年齢に応じた人間関係づくり ワークショップ	ホームヘルパーのレベルアップ事業
在宅障害者自立支援センター「えほん」	NGO外国人救援ネット
ボランティア育成講座事業	多言語による外国人のための生活相談ホットライン
市民活動センター・神戸	W.Sひょうご
市民活動サポートセンター事業 「市民活動センター・神戸」の運営	「夫・恋人からの暴力」についての啓発事業

[第1回助成事業のまとめ]

平成11年度10月の理事会において事業概要が審議可決され、申請期間まで限られた時間内での作業となり準備が大変でした。事業広報については、当基金が設立間もないこともあり、プレス発表には多くの記者の方にお集まりを頂き、スムーズに広報されました。また、当基金・理事が関連の市民団体に呼びかけをして下さったことも申請数に反映されたものと考えます。ただ、今後を考えると更なる当基金の周知活動が必要であることも事実です。また、申請団体へのヒアリングは非常に効果的であり、それぞれの活動の実態や抱える問題点、悩み等を実際にお聞きすることが出来、アドバイスや紹介など助成事業とは違った視点で関わりを持てたことは当基金にとってプラスとなりました。公開審査会は審査員の先生方にその運営方法をお伺いしながら手探り状態で行いましたが、申請団体の情熱のこもったプレゼンテーションに心を打たれました。それぞれの団体にとっても自分達以外の活動を知る良い機会となったと考えます。

当基金の助成趣旨として助成金の使途や他助成団体との重複申請について規制を設けなかったことは多くの団体から好評を得ました。申請書の記入方法や予算書の作り方もヒアリング時に丁寧にアドバイスしたことも良かったのではと愚考致します。

助成決定後に決定団体に対して、再度の中間ヒアリングを行い、事業の進行状況や問題点等をお伺い致しました。この作業についても各団体から好評を頂き、新たなネットワークの構築と事業展開がなされていることをご報告致します。

(2) 特定非営利活動法人認証記念講演会事業

[目的]

阪神・淡路大震災を契機に生まれてきた「市民が市民を支えていく力」を市民活動を通して、今後、いかに継続させていくのか、また、その重要性を講演頂く。当基金が特定非営利活動法人として市民活動を支援していくことを広く周知していただく機会とする。

[事業内容]

当基金の顧問でもあるノンフィクション作家・柳田邦男先生を招いて一まちの再生、ひとの再生－死者からのメッセージを生かすために－というタイトルで講演会を開催した。

[開催日時・場所]

日 時 : 平成 12 年 3 月 5 日 (土) 14:30～

場 所 : 松方ホール

参加人数 : 250 名

[講師プロフィール]

講師名 : 柳田 邦男 氏 (ノンフィクション作家)

プロフィール：1936 年栃木県生まれ。東京大学経済学部卒業。72 年 NHK 記者時代に連続航空機事故の原因を追跡した「マッハの恐怖」で第 3 回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。その後フリーとなり、現代人の「生と死」をテーマに、事故、災害、病気、医学、戦争などの問題に関する多くのドキュメンタリーな作品を発表している。95 年、ノンフィクション・ジャンルの確立と、「犠牲（サクリファイス）わが息子・脳死の 11 日」による新しい境地の開拓に対し、第 43 回菊池寛賞を受賞した。

[記念講演会事業のまとめ]

当基金として初めての講演会事業でしたが、講師である柳田先生の全面的なバックアップと理事を含めた会員の協力のお陰をもって無事に終了致しました。開催決定から開催日までの時間が少なく十分な広報が出来ず、動員が思うようになかった事が残念でした。柳田先生のお話は私達にとって非常に示唆に富んだものであり今後の市民活動への方向性を示して下さいました。当日、参加頂いた皆様と柳田先生にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

(3) その他事業

[第2回こうべiウォーク]・・・当基金協賛事業

iウォークは市民の、市民のための募金事業です。阪神・淡路大震災をきっかけにボランティア活動の重要性は広く知られるようになりましたが、その活動を支援する財政基盤は未だ確立されていません。ボランティア先進国のアメリカでは多様な資金集めの手法が発達していますが、募金を持ち寄って一緒に歩くという今回の催しも全米各地で行われているエイズウォークに啓発されて始めたものです。ウォークの運営費用は各種団体による助成金や広告収入でまかなう方針で、頂いたお金は全額「しみん基金・こうべ」に寄付致します。ウォークのコースはJR鷹取駅前大国公園から三宮の東遊園地まで、全行程10キロを歩きます。庶民的で活気にあふれたこの地区が震災でどんなに変ったか、自分の目で確かめてみましょう。道中7箇所にスタンプが用意されていますが、ルートや所要時間の制限はありません。

(以上、第2回こうべiウォーク・ガイドマップより抜粋)

開催日時 : 平成12年1月16日(日) 受付10:00~13:00
運営主体 : 「第2回こうべi(あい)ウォーク」実行委員会
後援 : 兵庫県、神戸市、元気アップ神戸市民運動推進協議会
協賛 : 西日本旅客鉄道株式会社、しみん基金・こうべ

(4) 草地奨励賞創設

当基金の理事であり、NGO活動に造詣の深かった故草地賢一先生の功績を偲ぶと共に、先生の「草の根の活動を」という意志を引き継ぐ為に奨励賞を創設、助成事業の公開審査の選考に漏れた団体より1団体を選び、授与することに致しました。

全体のまとめ・・・・・・・・

設立までの期間に基金のあり方について随分と討議して来たお陰で、設立以降、第1回助成事業、法人格取得、記念講演会事業と7ヶ月間に行ったそれぞれの事業は問題点もありましたが、大きな失敗もなく無事に終えることが出来ました。ご支援して頂いた皆様方には心より感謝申し上げます。それぞれの問題点については今後の課題として再度、理事会において様々な意見を出し合い、より良いものに作り上げて参りたいと考えています。全体を通して感じることは、当基金の市民に対する広報不足です。この点は地道な広報活動とメディアを使用した広報をフルに生かしながら解消をしていきたいと思えます。申請団体や関連の皆様からは当基金の重要性と柔軟性について励ましと、賞賛の声を多くお聞かせ頂いているだけに、更なる努力が必要であることを痛感致しております。市民の手で作られた市民活動の為の基金が21世紀の神戸をより輝かせる一助となるよう努力していく所存ですので、皆様方の変らぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。